



## 東京芸術祭ファーム2023

### Asian Performing Arts Camp 参加者募集

[ 応募締切：2023年6月20日(火)16:00 (日本標準時) ]



1, 2. 東京芸術祭ファーム 2022 Asian Performing Arts Camp 公開セッション 3. APAF 2019 Lab. 活動の様子 4. APAF 2019 Lab. 最終プレゼンテーション

### ボーダーを越えて、身体を超えて、アジアの舞台芸術の未来へ

東京芸術祭ファーム Asian Performing Arts Campは、アジア各地で活動する舞台芸術の人材がそれぞれのテーマや問題意識を出発点に、リサーチやフィールドワーク、文化や国籍を超えたディスカッション、レクチャーやワークショップを通して共に思考を深め、今後の自身の活動やフィールドを耕すためのアートキャンプです。2023年度は、オンライン活動と約一週間の東京への滞在を組み合わせ「ハイブリッド型キャンプ」として実施します。最終日には一般公開のプレゼンテーションを行い、参加者が期間中に得たものをシェアし、観客やゲストとも意見を交わすことで、アーティスト自身のステップアップを目指します。アジアを拠点に活動する演出家、振付家、劇作家、ドラマトルク、プロデューサー等、舞台芸術の企画において重要な役割を果たす作り手を対象に、本プログラムの参加者を公募します。(実施言語：英語)

| 東京芸術祭 Webサイト <https://tokyo-festival.jp>

主催：東京芸術祭実行委員会〔公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都〕  
協賛：アサヒグループジャパン株式会社

東京芸術劇場  
Tokyo Metropolitan Theatre

ARTS COUNCIL TOKYO



東京都

| アサヒグループジャパン株式会社

## ファシリテーターからのメッセージ

プログラム期間中は、ファシリテーターとして山口恵子、ジェームズ・ハーヴェイ・エストラダの2名が参加者に伴走し、それぞれのテーマや問題意識を掘り下げ、発展させるサポートを行うとともに、国や文化を超えた協働の可能性を一緒に探求していきます。

### ここではないどこかの受信、いまこの試行 — 山口恵子

2020年からキャンプに参加した私にとって、今回は初めて「対面（in-person）」の期間がある年となります。この3年間私を魅了してきたのは、オンラインは現実の代替ではなく、そこで垣間見る世界こそが画面の向こうにいるキャンプで出逢った友人たちが生きる現実であるという事でした。画面を通してここではない場所の今を交換することで、私の視野は次から次へと切り替わり、異なる世界と自分の世界を同時に受信する想像力を養えたように思います。

移動が比較的可能になった去年は、オンラインの空間が定点となり、移動する私たちを繋ぎ止めていました。物理的に離れながら時間を共有する術を学んだ今、人が一箇所に集まることで生まれることとはなんだろうかと思いを巡らせます。ひとつの都市に集まることの方が、現実から離れた行為であるとしたら、そこで上演される演劇やダンス、舞台芸術はどのような役割を担うのでしょうか。今年はオンラインの時間と、東京での対面の時間とを組み合わせることで、其々が生きる日常や、現実が出会い直し、舞台芸術における国際共同がまた別の佇まいを見せてくれるのでは、と期待しています。是非みなさんの興味や情熱、思いをオンラインと対面の場に投げ込んでください。あなたの町と東京でお会いしましょう。たくさんの応募をお待ちしています。



山口恵子 YAMAGUCHI Keiko

京都（日本）

京都在住、俳優、演劇をつくる人。2011年に演劇グループBRDGを立ち上げ、インタビューやフィールドワークを元に、多文化・通訳に焦点を当てた作品を創作。2020年に日本・フィリピンの青少年と、フィリピンの劇団PETAと協同で『ふれる〜ハプロス』を発表、オンライン作品『HELLO』を配信した。俳優として、松本雄吉、マレビトの会、したため、りっかりっか＊フェスタ（沖縄）の作品に出演する。2017年アジアセンターフェロー。APAF2020 Labに参加し、翌年のAsian Performing Arts Camp 2021と2022で共同ファシリテーターを務める。2021年より青年団演出部所属。京都・東九条のコミュニティカフェほっこりで店員として働きながらラジオを放送している。<https://brdg-ing.tumblr.com>

Photo: Koichiro Kojima

### 新しいアジアの幕開け？ — ジェームズ・ハーヴェイ・エストラダ

2019年、私はパンデミックが始まる以前のAPAF (Asian Performing Arts Farm) に参加しました。その年のラボ（現在のキャンプ）プログラムでは、「モビリティ」と「グラビティ」というキーワードに焦点を当てていて、この2つの言葉に触発された私たちは「新しいアジア」について思考し始めたのでした。当時の私にとってこの「新しいアジア」という概念は、古いアジアとは何か、未来のアジアはどういうものになるのか、我々を待ち受ける未来において舞台芸術が果たす役割とは何か、といった問いを提示するものでした。

今、舞台芸術が直面するパンデミックのアジアもまた、私にとっては、新たな問いを投げかけてくるものです。より良い社会を作るために、舞台芸術に携わる我々は自らの技術をどのように磨けば良いか？社会が少しずつ平常状態に移行するなかにおいてなお、オンラインで集うことの意味とは？その時間を有効に使うには？東京にはどのような人たちが集まるのか？この集まりはどこへ向かうのか？パンデミックは、いつ終わるのだろうか？

パンデミックによる一連のロックダウンと隔離を経て、多くが変わりました。未だ不確定なことも多いなか、今こそ、制作にまつわる新たな思考を開き、そのプロセスを見つめ直す必要があるでしょう。私たちは今までになく、自分たちの身体と空間、あるいは様々な機械との関係であるとか、デジタルな文脈における市民ないし芸術家としての時間感覚といったことに関して、多様なアイデアを有しているはずで。

今年のキャンプはハイブリッドな形をとり、オンラインでの活動と、東京で互いに顔を合わせる活動の両方を予定しています。これまでの豊かな経験に支えられ、再び集い、様々な可能性を探り、それぞれのコミュニティで直面する問題について語り、この時代にとって重要な問いを共有する機会となるはずで。今年の集まりは、あるいはポスト・パンデミックの新しいアジアの幕開けとなるのでしょうか？Asian Performing Arts Campで皆様にお会いできるのを楽しみにしています。



ジェームズ・ハーヴェイ・エストラダ James Harvey ESTRADA

リサール（フィリピン）

演劇作家、メディア・プラクティショナー、作家、アーティスト・エドゥケーター。連帯、フェイクニュース、人権をテーマに、アジア地域の物語や表現を織り交ぜながら、国境を越えた協働を通して創作活動を行うフィリピン人アーティスト。これまでにインドネシア、マレーシア、シンガポール、韓国、日本、ニューヨークで芸術的な交流に参加し、作品制作を行った。マニラを拠点とする現代パフォーマンスカンパニーThe Scenius Pro. 芸術監督を務め、ろう者コミュニティの強化、HIV感染者に対する差別撤廃、海外フィリピン人労働者の窮状を訴えるパフォーマンスを考案した。アンゴノの芸術高等学校で舞台芸術を指導し、フィリピン工科大学ではメディア制作と舞台芸術について講義を行う。PUP COC SIKAT AWARDSにおいて、パンデミック禍での芸術活動に対し「PANDEMIC ACHIEVER 2022」を受賞。テアタートレップフェン2023（ドイツ）International Forum 参加者。東京芸術祭ファーム2022 Asian Performing Arts Campでは、共同ファシリテーターとして、テーマである「Performing Hybridity and Prototyping Trans-time（ハイブリッド性の上演／「越時的なもの（Trans-time）」のプロトタイプング）」を探求するアーティストを募集した。  
<https://jevsharbi.wordpress.com>

## 実施概要

### ■ 実施日程

期間：2023年7月21日(金)～10月17日(火)

#### ● 東京芸術祭ファーム2023 プログラム共通

	日程	実施会場
共通レクチャー① ＜ハラスメント防止研修＞	7月21日(金) 15:00～17:00	オンライン (Zoom)
参加者顔合わせ	7月31日(月) 15:00～17:00	
共通レクチャー② ＜コミュニケーションデザイン＞	8月7日(月) 14:00～17:00	
公開レクチャー	8月下旬 (日程調整中)	
主催者顔合わせ	9月11日(月) 15:00～17:00	

#### ● Asian Performing Arts Camp

	日程	実施会場
オンライン活動	各日3～4時間程度で実施 8月8日(火)、8月15日(火) 9月5日(火)、9月12日(火)	オンライン (Zoom)
Online Sharing Session	9月19日(火)	
東京への滞在	10月3日(火)～9日(月・祝)	東京・池袋
In-Tokyo Sharing Session	10月9日(月・祝)	東京芸術劇場アトリエイースト またはアトリエウエスト
チェックアウト / 海外参加者帰国	10月10日(火)	
ラップアップ / 修了式	10月17日(火)	オンライン (Zoom)

※期間中は、活動日以外も随時Slack等で連絡・情報交換を行います。

※オンライン活動の実施時間は参加者の時差をふまえて調整し、7月末までに参加者へ連絡します（参考：昨年は14:00～17:00（日本標準時）で実施）。

### ■ 実施内容

オンライン活動	Zoom、Miro、One Drive等のオンラインツールを使用し、ディスカッションやワークショップ、レクチャー受講などを行います。各自がプログラムの活動時間外に行うリサーチの進捗共有も行いながら、参加者同士のコラボレーションの可能性についても探求します。
Online Sharing Session	各参加者がリサーチやプロジェクトの途中経過をオンラインでのプレゼンテーションとして発表します。東京芸術祭や東京芸術祭ファーム関係者を観覧者として招待します。
東京への滞在	現地でのディスカッションやワークショップ、レクチャー受講の他、東京芸術祭関係者との交流、劇場や現地アーティストの訪問等のフィールドワークを実施予定です。In-Tokyo Sharing Sessionに向けては、滞在中に各自でリサーチや準備を進めます。
In-Tokyo Sharing Session	参加者それぞれが期間中に取り組んだリサーチの結果を一般公開（要予約・観覧無料）のプレゼンテーションで発表し、ゲストフィードバックを迎えるフィードバックセッションを行います。

※プログラムの活動や参加者同士のコミュニケーションは全て英語で行います。プレゼンテーションやフィールドワーク、またスタッフとのコミュニケーションで、日英通訳が入ることがあります。

※日本国内からの公募で選ばれる「アートトランスレーターアシスタント」、「ファーム編集室 アシスタントライター」、「制作アシスタント」のメンバーが活動に帯同します。

東京芸術祭ファーム ラボは、さまざまな人が創造的な力を安心して発揮できるよう、「東京芸術祭ファームラボ ガイドライン」 ([https://tokyo-festival.jp/tf\\_farm](https://tokyo-festival.jp/tf_farm)) に則って運営されます。全ての参加者はこのガイドラインのもと、活動に参加していただきます。

## 募集要項

### ■ 応募資格

次の1～8のすべてにあてはまる方

1. アジアを拠点に活動している
2. 舞台芸術作品やプロジェクトにおいて創作上重要な役割を果たしている
3. 原則として活動開始の2023年7月21日時点で35歳以下
4. 全ての実施日程 (p. 3参照) に参加可能
5. 東京芸術祭が行う広報およびPRに協力することができる
6. オンラインでの活動に必要な環境を整えられる
  - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
  - グループビデオ通話、動画閲覧、大容量ファイルのダウンロード等に十分に対応できるインターネット接続環境
  - Zoomのグループビデオ通話\*、Slack、Miro、One Driveが利用できる端末 (使用ツールは参加者の状況やプログラム内容に応じて追加、変更となる可能性あり)  
\*Zoomの使用に必要なシステム要件：<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>
  - スマートフォンのみでの参加は非推奨
7. 日本への渡航・滞在に必要な手続きに協力ができる (かかる費用は自己負担)
  - 日本側での在留資格認定証明書取得に必要な情報の提供 (パスポート情報、顔写真等)
  - 海外現地の在外公館へのビザ申請手続き
8. 以下の姿勢および関心を持っている
  - 英語でのコミュニケーションに積極的に参加する姿勢
  - バックグラウンドや価値観が異なる相手との対話を通じて新たな発見を得たいというモチベーション
  - 国際協働におけるコミュニケーションについて考え、実践することへの関心
  - 今後も国際的な舞台芸術の分野で活動を続ける意思

### ■ 募集人数

5名程度

### ■ サポート

- 東京滞在期間のイベント保険加入 (10月3日～10日)
  - 東京滞在期間の日当 (1,500円×8日間)
  - フィールドワーク・調査費 (都内劇場への入場料等) のサポート
  - プレゼンテーションや東京でのフィールドワーク等での日英通訳
  - コミュニケーションデザインチームによるサポート：多文化間のコミュニケーションや英語でのディスカッション方法についてのレクチャー、参加者間でのコミュニケーションのルールづくり、活動内のコミュニケーションに関する相談・対応 等
- ※本プログラムでは専門的、抽象的な内容を伴うディスカッションが英語で行われる予定ですが、参加者が英語レベルに関係なく対等に対話に参加できる場を作るため、コミュニケーションのサポートをしていきます。

< 以下は海外居住者のみ対象 >

- 東京滞在期間の宿泊場所提供 (10月3日～10日)
- 居住地の最寄りの国際空港から東京の国際空港間の往復航空券、東京の国際空港と滞り場所間の往復送迎

< 以下は日本国内の関東以外の地域に在住しており、自宅からの参加が難しい場合のみ対象 >

- 東京滞在期間の宿泊場所提供 (10月3日～10日)
- 居住地から東京までの往復交通費の補助

## ■ 選考スケジュール

Asian Performing Arts Campファシリテーター 山口恵子/ジェームズ・ハーヴェイ・エストラダ、東京芸術祭アソシエイト・ディレクター 根本晴美による選考を行います。

応募受付	応募締切：2023年6月20日(火)16:00 (日本標準時)
一次選考：書類審査	結果発表：2023年6月30日(金)までにメールにて合否を通知
二次選考：オンライン面接 (Zoom使用予定)	選考実施日：2023年7月3日(月)～7月6日(木)
参加者決定	結果発表：2023年7月19日(水)までに合否を通知

※採否に関わらず、選考の結果は応募者全員にメールで通知します。Farm-Lab オフィスからのメール (farm@tokyo-festival.jp) が受け取れるようパソコンや携帯電話の設定をご確認ください。

## ■ 応募方法

応募フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

応募フォーム <https://sgfm.jp/f/farm2023camp> ※回答は全て英語で記述してください。

### <必要事項>

- 氏名もしくはアーティスト名
  - 自分に対して使用してほしい代名詞 等 (he/him、she/her、they/them、名前 等)
- 国籍
- 活動拠点 (複数ある方は全て)
- 最寄りの国際空港 (日本国外在住者のみ)
- 生年月日
- メールアドレス
- 連絡先住所 (日本在住者のみ / 日本語で記入)
- 日中連絡のつく電話番号
- 職業 (所属など)
- アーティストプロフィール (150ワード以内)
- アーティスト写真 (画像形式: jpgまたはpng / データサイズ: 5MB以下)
- ウェブサイト (あれば)
- これまで関わった作品の動画リンク (YouTube等 / あれば)
  - その作品における自身の役割
  - その作品の概要 (英語150ワード以内)※必要に応じて閲覧制限を設定してください。
- ご自身の活動の中心テーマや問題意識 (200ワード以内)
- オンラインと実地の両方で開催される今回のプログラムを通して、どのようなことに取り組みたいと考えているか、自らの芸術実践との関連で教えてください。 (200ワード以内)
- 自身の英語でのコミュニケーション力 (選択式)
  - 簡単な自己紹介や相手との会話ができる
  - ある程度準備しておけば、自分の活動の内容を説明することができる
  - 自身の専門分野において、抽象的な概念も用いながら考えや意見を述べるることができる
  - c.をもとに、議論を発展させていくことができる
  - 上記の回答についての補足 (資格・スコアがある場合はお書きください)
- オンラインミーティング等に使用する機材 (選択式)  
※オンラインでの活動に必要な環境は「応募資格」(p.4)を確認してください。
- 二次選考期間 (7月3日(月) 11:00～17:00、4日(火) 11:00～17:00、5日(水) 11:00～17:00、6日(木) 11:00～17:00) の内、面接に参加できない日時 (あれば)  
※日本標準時で回答してください。
- 応募にあたっての連絡事項など (あれば)

## ■ 留意事項

お預かりした個人情報厳重に保管し、本プログラムに関する諸連絡以外に使用することはありません。

[お問合わせ] Farm-Lab オフィス MAIL: farm@tokyo-festival.jp TEL: 03-4213-4293 (平日10時～18時)

※記載の情報は2023(令和5)年5月25日現在のもので、内容等は変更になる場合がございます。

## 東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、東京芸術祭の人材育成と教育普及の枠組みです。アジアの若いアーティストの交流と成長のためのプラットフォームであったAPAF (Asian Performing Arts Farm) に、フェスティバル/トーキョー (F/T) の研究開発・教育普及事業が合流し2021年にスタートしました。

今年の東京芸術祭ファームは、研究開発を通じた人材育成のための「ラボ」と、教育普及のための「スクール」の2つのカテゴリーで様々なプログラムを実施します。「ラボ」では、他者と協働しながら地域や分野を超えた「トランスフィールド」を開拓し、今後ますます流動的になる様々なボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。「スクール」では、大学生を中心とした若い観客を対象に、レクチャーの受講やトークイベントへの参加など、舞台観劇を通して、考え、交流する機会を提供します。